

# お国自慢



Hitz 日立造船株式会社

鶴岡市

## 人くらし自然 みんないきいき 心やすらぐ文化をつむぐ悠久のまち 鶴岡 鶴岡市ごみ焼却施設

### 1. はじめに

鶴岡市は日本屈指の穀倉地帯である庄内平野の南部に位置し、古くから山岳信仰の対象として有名な霊峰の出羽三山が見下ろす風光明媚な城下町です。

平成の大合併で周辺の4町1村（藤島町・羽黒町・櫛引町・朝日村・温海町）と合併し新「鶴岡市」が発足しました。山形県庄内地方の2大都市を酒田市と形成し、県内では山形市に次いで2番目に多い人口（約12万人）を抱え、面積では東北で一番を誇ります。

広大な平野部を有することで、庄内米、だだちゃ豆などの豊かな農産物に恵まれています。また国内で最も多い3つの日本遺産や4つの国民保養温泉地など史跡・名勝や行楽地がたくさんあり多くの観光客が訪れています。その他に漁業も盛んで厳冬期に陸揚げされた真鱈を使った「どんがら汁」は鶴岡市の郷土料理として親しまれています。

江戸時代には庄内藩の中心地として繁栄し、鶴岡市出身の作家藤沢周平の時代小説（隠し剣シリーズなど）に登場する海坂藩は庄内藩がモデルといわれています。

### 2. 施設の紹介

鶴岡市ごみ焼却施設は令和3年3月31日に竣工したストーカ式焼却炉です。

当社の最新技術を採用することにより「処理

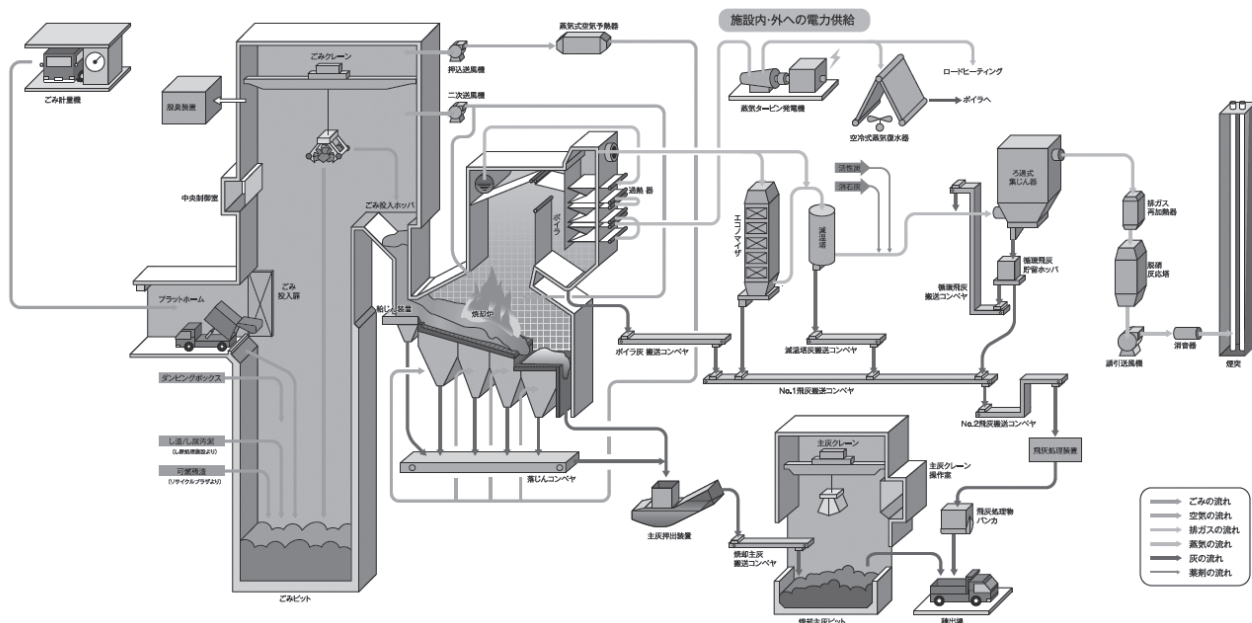
対象物の適正処理、生活環境の保全、有害物質のさらなる削減を図るとともに、循環型社会を構築するためのエネルギー回収を推進するため、焼却による熱エネルギーを利用した発電を行う」という目的に適う施設となっています。

### 3. 施設の概要

- ・施設名称：鶴岡市ごみ焼却施設
- ・所在地：鶴岡市宝田三丁目13番6号
- ・敷地面積：26,951㎡
- ・炉形式：ストーカ式焼却炉
- ・施設規模：160t/日（80t/24h × 2炉）
- ・発電設備：蒸気タービン 3,020kW
- ・竣工：令和3年3月31日



施設全景



施設フローシート

#### 4. 施設の特徴

##### ① CoSMoS（コスモス）

学習機能をもった画像認識システムで炉内の燃焼状態が不安定になる予兆を自動で察知し、自動運転制御システムに情報を伝達することで安定的な自動燃焼を実現します。

##### ② 3次元マップ技術

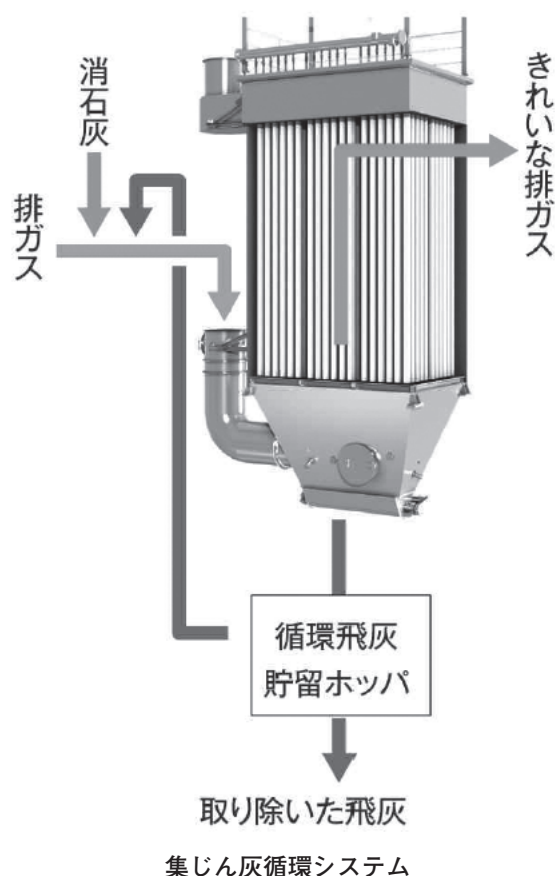
ピット内のごみの攪拌状況が一目で把握できるとともにマップ情報を活用することで十分に攪拌され均一化されたごみを優先的に焼却炉へ投入します。

##### ③ 電力の地産地消

発電した電力は施設内で利用するほか、余剰電力は売電して、市内の小中学校などの公共施設に供給します。

##### ④ 集じん灰循環システム

ろ過式集じん器で捕集した集じん灰の一部を、再びろ過式集じん器に供給し、集じん灰に残る未反応の消石灰を再度利用することで、消石灰の使用量や集じん灰の搬出量を減らし、ランニングコストと環境負荷を低減します。



## 鶴岡市のご紹介

### ◇出羽三山

出羽三山は羽黒山、月山、湯殿山の総称です。出羽三山を巡ることは、死と再生を辿る「生まれ変わりの旅」。日本古来の、山の自然と信仰の結び付きを今に伝えています。

羽黒山は、人々の現世利益を叶える「現在の山」。樹齢300年を超える杉並木に囲まれた石段の先には三神合祭殿があり、月山や湯殿山が雪で閉ざされる冬季も出羽三山のご利益を受けることができます。

月山は、祖霊が鎮まる「過去の山」。月山8合目から山頂までは約2時間半の登山。美しい高山植物が咲く道のりは神秘的です。

湯殿山は、新しい生命の誕生を表す「未来の山」。「語るなかれ」「聞くなかれ」の修験道の聖地・湯殿山。神秘のベールに包まれた地をぜひご自身で体感してみてください。



出羽三山神社

### ◇加茂水族館

クラゲの展示種類世界一を誇る人気の水族館。庄内の魚、海獣エリアなど、様々な海の生き物に出会えます。

クラゲ専用としては世界最大級の直径5mの大水槽では、約1万匹のミズクラゲが神秘的な



鶴岡市立加茂水族館

空間を演出しています。

### ◇北前船

北前船とは江戸時代中期から明治30年代にかけて日本海回りで商品を売り買いしながら大阪と北海道を結んでいた商船の総称です。

令和元年には日本遺産「荒波を超えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」に鶴岡市が追加認定され、5つの構成文化財に認定されました。

荒波を越え、動く総合商社として巨万の富を生み、各地に繁栄をもたらした北前船の寄港地・船主集落は時を重ねて彩られた異空間として今も人々を惹きつけてやみません。



加茂港周辺の町並み

### ◇サムライゆかりのシルク

戊辰戦争で敗れた旧庄内藩士約3,000人が、庄内地域一円からの支援のもと、新たな産業を興し賊軍の汚名をそそぐため「刀を鋏に」持ち替えて開墾し、広大な桑畑を拓き、国内最大の蚕室群を建設しました。鶴岡・庄内は国内最北限のシルク産地として発展。現在もシルクの生産工程が全てそろった国内唯一の地域です。



松ヶ岡開墾記念館